

第16回ロードスター祭 初心者限定体験走行のしおり

2024/4/20 土曜日 日光サーキット

はじめに

ロードスターは「人馬一体」というコンセプトのもとにマツダが開発したライトウェイトオープンスポーツカーです。

「自分の愛車を意のままに操る」というスポーツドライビングの楽しみを、少しでも実践、体感していただければと思います。

サーキットには法定速度はありませんが、ルール無用の無法地帯ではありません。安全にスポーツドライビングを楽しむためのルールがありますので、ルールは守りましょう。

ルールが守られなかった場合、自分の車や周りの車を壊すリスクや誰かを傷つけてしまうリスクがあります。せっかくの楽しいスポーツドライビングが全て台無しになってしまうので、「楽しく走れて最高だった!」と思えるようにルールを守って走行しましょう。

走行に関してはプロドライバーの方、チューニングショップオーナーの方、サーキット走行ベテランの方などが、インストラクターとしてアドバイスをを行います。

インストラクターの方も、みなさんと同じように免許を取り、車を買って、サーキットに足を運ぶという「同じ道」を通ったことがあります、最初は当然初心者でした。わからないこと、不安なこと、何でも気軽に聞いてみてください!

当日の流れ

集合時間	:	11:30
ドライバーズミーティング	:	11:45
パレードラン	:	13:00
走行開始	:	13:40

集合時間までに会場に到着していただけるようにお願いします。

ゲートオープンが7:00を予定しておりますので、それ以降の時間であればいつでも入場可能です。

パレードラン終了次第走行時間となりますので、パレードランに参加される場合は退出後にそのままピットロードにお並びください。

装備品

1.車両準備

1.1.事前準備

・メンテナンス

サーキット走行の前日までに、以下のことをチェックしておきましょう。

- エンジンオイル、ミッションオイル、デフオイルの交換
- タイヤの状態
- 装備品の忘れ物がないか
- エンジンルームの点検（バッテリー、冷却水など）
- 足回りの点検（ブレーキ周り、サスペンションなど）
- 走行試運転（異音や異常振動など）

可能であれば、サーキット走行などに詳しいショップで点検、整備、アドバイスをしてもらおうといいでしょう。

・タイヤについて

スポーツドライビングを行うと、当然タイヤが摩耗します。

負荷がかかると発熱し、表面にゴムが溶けたタイヤカスが付着します。

そのままでも走行後に公道を走ることは可能ですが、振動がでたりロードノイズが大きくなったりするので、気になる場合は走行用のタイヤ&ホイールを用意しましょう。

1.2.当日の朝

・荷降ろし

パドックを確認して車両を停めたら、まずは荷物をすべて下ろしましょう。

通常の走行とはかかるGが違うので、普段動かない物も動いたり飛んでいったりします。

芳香剤や充電器などの車内の小物も外しておきましょう。万が一動いてペダルやステアリングの操作に支障が出てしまうと、クラッシュやコースアウトに繋がります。

・ゼッケン

受付で受け取ったゼッケンを、主催者の指定する位置に養生テープを使用して貼り付けましょう。マスキングテープ、ビニールテープは剥がれやすいのでNGです。

今回はドアの左右に貼り付けてください。

・テーピング等

主催者、サーキットによっては、クラッシュ時の飛散防止のための灯火類のテーピング、発火等のトラブルを防ぐためのリザーブタンク類、バッテリーターミナル、レベルゲージのテーピングや固定が指示される場合があります。その場合は指示に従って車両にテーピング等を施しましょう。

・フロアマット

走行時、フロアマットの挟み込みによる事故があります。
走行前には必ず取り外して走行してください。

・タイヤ交換

走行用のタイヤ&ホイールを用意している場合は、タイヤ交換を行きましょう。
ホイールナットの締め付けトルクの確認、空気圧のチェックは必ず行いましょう。
ワイドトレッドスペーサーを取り付けている場合は、そのナットのトルクチェックも行いましょう。
工具などが無い場合は運営スタッフにお声掛けください。
貸し出し可能な工具があります。

・牽引フック

車両に後付けの牽引フックを取り付けていない場合は、純正の牽引フックをすぐに取り付けられるように、すぐに取り出せる場所に用意しておきましょう。

2.サーキットルール

2.1.会場のルール

サーキットは参加者がみんなでする公共の場所です。ルールを守って使いましょう。

2.1.1.日光サーキットのルール

・音量規制：105db

走行中に日光サーキットスタッフが音量測定を行っています。
音量を超えてしまう場合は走行できなくなるので注意しましょう。

・パドック、ピット内→必ず徐行、バーンアウトは禁止

パドック及びピットレーンはコースではありません。
走行する際は必ず徐行で、バーンアウトやスピターンなどは厳禁です。
多くの人や車が行き交う場合もあるので、バックする際は十分に周囲を確認してから下がります。

2.2.装備品

サーキット走行においては、以下の装備を身に付けて走行します。

- ヘルメット（フルフェイスかジェットタイプのもの）
- グローブ（軍手禁止）
- 長袖、長ズボン
- 運転のしやすい靴

今回はヘルメット、グローブのみレンタル品のご用意があります。

必要な場合は事前に運営までご連絡ください。

以下の装備はNGです。着用して走行している場合、後述する黒旗の対象となり、走行中断となります。

- 半キャップ、コルク、自転車用などのヘルメット
- 半袖、短パン ※アームカバー、レッグカバーをしていてもNGです
- サンドル、クロックス、ハイヒール

万が一のクラッシュや車両火災などの対策、また快適な操作のために以下の装備が推奨です。

- レーシングシューズ
- レーシンググローブ
- HANS

2.3.走行のセオリー

・ウインカーについて

ウインカーは街中の走行と同様に、進行方向を示します。

ピットからコースインする際の合流、コースからピットインする際、速い車両に進路を譲る際の譲る方向の提示などに使います。

主に自分が避ける方向にウインカーを出します。

今回の走行では原則左寄りに統一されています。

2.4.パドック内のルール

2.4.1.車両優先

パドック内は一般公道と異なり、走行する車両が優先となります。

歩行者は周囲の車両に十分注意の上、パドック内を歩くようにしてください。歩きスマホなどは非常に危険なのでやめてください。

また写真撮影などをする場合は、特に周りが見えなくなりがちなので気をつけてください。

2.4.2.火気厳禁

ピットエリアには燃料やパーツクリーナーなど、引火性のあるものがあります。

ストーブやコンロ、ライター、マッチなど火気は厳禁です。

2.4.3.喫煙について

喫煙は指定された場所でのみ可能です。

タバコも火気ですので、ピットエリア内では一切禁止です。

サーキットによっては全面禁煙の場所もありますので、喫煙者の方は会場ごとのルールを必ず確認しましょう。

2.5.コース上のルール

2.5.1.旗について

コース上のコンディションなどを走行中のドライバーに伝えるために、コースの各所でコースマーシャルが旗を振って合図をします。

その際に使用される旗には以下のものがあります。

緑旗	走行開始、または走行再開（黄旗、赤旗の解除）の合図
黄旗	前方に障害物（スピン車両、落下物等）あり、すぐに停止できる速度まで減速し、注意して走行
赤旗	コース上に重大なトラブル発生、走行中断してピットへ戻る
黒旗	車両、もしくはドライバーに問題あり、ピットへ戻って内容を確認する ※ブローにより油脂類が漏れている場合は速やかにコース外へ移動して停車する
チェッカー	走行終了の合図、確認したらピットへ戻る

旗の運用は主催者、サーキットなどにより細かな使用方法が異なる場合があります。ドライバーズミーティングでしっかりと確認しましょう。

旗の指示を無視することは重大なマナー違反となります。主催やサーキット側からの厳重注意、その日の走行の禁止などの処置になる場合があります。旗は必ず確認して従いましょう。

3.スポーツ走行

3.1.操作方法

ここでは「タイムを向上させる」というより、「安全にサーキット走行を楽しむ」ための操作方法を案内します。

初心者限定体験走行のクラスは全車インストラクターがつきます。インストラクターの指示には必ず従うようにお願いします。

3.1.1.「急」の禁止

ステアリング、アクセル、ブレーキ、すべて「急」がつく操作はしないようにしましょう。

3.1.2.出来ない操作はしない

「ぎりぎりまでブレーキを我慢する」「ヒール&トゥを完璧に行う」「無理にタイムアップを目指す」など、自分の力量の限界を超えるようなことは控えましょう。

ロードスター祭の体験走行は、サーキット走行未経験の方にサーキットを安全に楽しんでもらうためのものです。趣旨を逸脱する無理な走行はしないようにしましょう。

3.1.3.前走車につられない、無理に追いかけない

前方に車両が走っていると、ついついつられてしまう場合があります。

前走車を注視してしまうと、視野が近くなったり、狭くなったりして安全な運転に支障を来す場合があります。

視線は自分が走行するラインを捉え、かつミラーなども常に確認を怠らず視野を広く持ちましょう。

前走車のペースが早い場合、ラインをトレースすることでタイムアップができる場合がありますが、車両のセッティングやタイヤの種類などにより、同じラインでの走行ができない場合もあります。

あまりにペースが早い車を追いかけてしまうと、思わぬコースアウト、クラッシュを招く危険があるので、無理はしないようにしましょう。

3.1.4.シートポジション

ステアリングの10時10分の位置を握ったとき、いずれも腕が伸びきらないシート位置が一般的に推奨されているシート位置です。

ステアリングを半回転以上回したときに腕が突っ張らないかの確認もします。

ステアリングを合わせるとペダルが合わない、などの場合には、ステアリングやボスを交換するといいでしょう。

3.2.走行ライン

3.2.1.レコードライン

下記のページを参考にしましょう。

山野哲也のサーキット攻略講座！第2回 日光サーキット<その1>

<https://ms.bridgestone.co.jp/special/circuit/03>

3.2.2.クーリング、追い越され

水温、油温が過剰に上がってしまった場合は、ギアをなるべく高いギア（4速～6速）に入れ、40～60km/h程度でクーリングを行いましょう。

クーリング中や後方からペースの速い車両が迫っている場合など、追い越される場合はなるべくストレート抜かれるようにしまししょう。

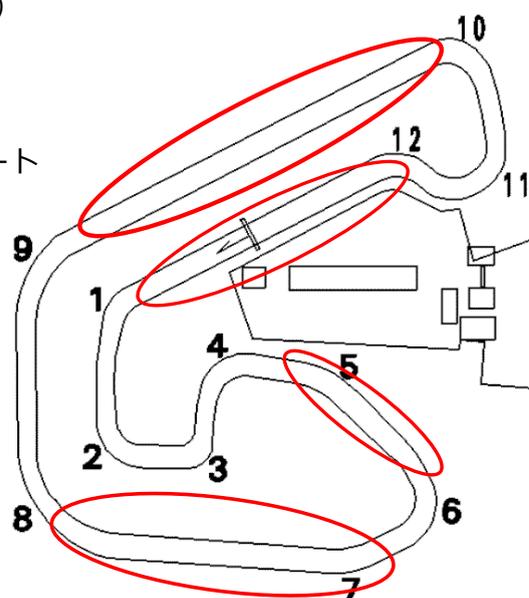
コーナー中やコーナーの前後で急な進路変更、急な減速を行うとクラッシュに繋がるリスクがあります。

ストレート手前で避ける方向をウインカーで指示し、ストレートに入りながらレコードラインをそれで減速しまししょう。

日光サーキットでの追い越されるポイントは以下の4箇所です。

- ホームストレート
(ピットからコースインする車両に注意)
- 4コーナー～6コーナー
- 7コーナー～高速コーナーまでのストレート
- バックストレート

原則、全区間にて左寄りで車両パスを行う。



4.万が一の時

4.1.クラッシュ

4.1.1.車両同士のクラッシュ

サーキット走行では、ドライバー、マシンともに限界近くでの走行をしていて、複数台の車が同時に走行しています。

場合によっては車両同士のクラッシュが発生することがありますが、サーキットは公道ではないので、当然保険などは使用できません。

また警察が介入して過失割合などを決めることもありませんので、通常は「ぶつかったときはお互い様」「クラッシュは各自の自己責任」「相手車両がいる場合でも損害の請求はしない」というのがサーキット走行のモラルとなっています。

悪質な走路妨害等で、どうしても相手側に言いたいことがある場合は、まずは直接言わずに運営に相談してください。

直接の言い合いなどでトラブルに発展すると、サーキット側、運営側、他の参加者などに迷惑がかかってしまいます。

4.1.2.単独でのクラッシュ

単独でクラッシュしてしまった場合、まずは身の安全を確保してください。

車両火災の可能性がある場合は、周囲の安全に十分気をつけた上で車両を降り、コースの外まで避難してください。

外装の破損など、軽微なクラッシュの場合は、レコードラインを塞がないように注意しながらピットまで戻り、車両のチェックをしてください。

レコードライン上に砂利や破損したパーツのかけらなどを撒いて汚さないように注意しましょう。

オイル漏れ、水漏れの可能性がある場合は、安易に車両を動かさないようにしましょう。コース上に液体をばら撒いてしまうと、コース清掃に時間がかかってしまいます。車両が動ける場合であってもコースには戻らず、コースマーシャルの車両回収を待ちましょう。

車両回収を待つ間はハザードを点灯する、窓を開けて手を振るなどして、コースマーシャルに動けないことをアピールしましょう。

待機中は車から降りずに、車内で待機しましょう。コース上は高速で走っている他の車両が居るため、非常に危険です。

4.1.3.施設破損など

クラッシュによりガードレール、クラッシュパッドなどのサーキット施設を破損してしまった場合、補修費用の請求がある場合があります。

主催者により請求方法などが異なるため、まずは主催に確認しましょう。

サーキットによっては、サーキット側で施設破損のための保険や共済を用意している場合があります。

必要に応じて加入しましょう。

ガードレールやクラッシュパッドで5～20万円、車両火災による路面補修や電光掲示板、スポンサー看板などを破損した場合は百万円を超える補修費用がかかる場合があります。

4.2.マシントラブル

異音、異常を感じたら無理せずに走行を中断し、ピットに戻りましょう。

各部の点検やメーター類、チェックランプの確認を行い、原因が特定できない場合はベテランの参加者に聞く、お世話になっているショップに電話するなど対処しましょう。

今回の場合はインストラクター、主催、運営スタッフなどにご相談ください。

走行中にエンジンプロー、ミッションブロー、デフブローなどが起きた場合は、安全を十分に確認した上で減速してコース外に車両を停車してください。

オイル漏れのリスクがあるので、オイルが漏れていないことが確認できない場合は無理にピットに戻らないようにしましょう。

最後に

今回の体験が最高だと思えるようスタッフ一同、精一杯のアテンドをします。

体験走行からサーキットデビュー、ドライビングの楽しさをあなたへご提供します。

当日、お会いできるのを楽しみにしております。